

ヤマザクラ

白井中で一番美しい桜。3Aの廊下から見える桜。「ソメイヨシノ」が咲くには、まだ早い頃ですが、その奥にひっそりと咲くもう一つの「桜」、気付いていますか？今日は、「ソメイヨシノ」より前から日本で咲いているこの「ヤマザクラ」についての話です。

以前、「桜」のところで紹介しましたが、「ソメイヨシノ」は、江戸時代に作られた桜です。「ソメイヨシノ」の特徴は、花が先に咲き、その後から葉が出ることです。ですから、あの美しくゴージャスな花々は、何にも邪魔されることなく咲き誇ります。そして、もう一つの特徴、それは、「ソメイヨシノ」は、全て「クローン」（さあ、何だったかな？有名な羊のドリー…。思い出してみてくださいね！）だということです。



一方、「ヤマザクラ」は、花が開くのと同時に葉も開きます。「ソメイヨシノ」の花数には到底及びませんが、楚々としたその風情は、昔から人々に愛されてきました。例えば、平安時代、在原業平の詠んだ歌。「世の中に たえて桜のなかりせば 春の心はのどけからまし」（ああ、この世に桜なぞがなければ、もっとのどかに春を楽しめるのに…。）等々。そういえば、何で、「ソメイヨシノ」は、葉より先に花が咲くのだろう？はい、ここで、いつもの大好き「日本植物生理学会 Q&A コーナー」で調べてみると…。そもそも、「桜」が多すぎる！やはり皆、「桜」が大好き、気になるのですね！どれも面白い質問ばかりで、しばし、読みふけること。あれ？ああ、そうでした、「葉が後から出てくる」疑問でした！ざっくりいうと、そこまではなほだしい時間差ではなく、桜としては、そう困らない範疇なのだろう。とのこと。ただ、他の植物の多くがそうであるように、葉で養分を蓄えてから、おもむろに「花」を咲かせ、結実する方が、効率が良いのはその通り。とありました。さて、「桜」の名所として名高い「吉野山」。同じ「ヨシノ」と名がつくので、「ソメイヨシノ」の花・花・花、を連想しますが、ここは、倭の国、いにしえからの「桜のお山」なので、咲いているのは「ヤマザクラ」です。山裾からだんだんに山頂まで、風情豊かに染め上げて「ヤマザクラ」は美しく咲き匂います。（桜の匂って、そんなにありましたっけ？否。古典の世界では、「匂ふ」＝美しく映えるさま。を言います。）

「桜」の花びらは、椿などとは異なり、一枚一枚、はらはらと散っていきます。受粉が済んだ花から花びらは散っていくのです。（受粉が済んでしまえば、もう花びらに用はないのですね。なんとという合理性！もちろん、虫にも用はありません。だから、花びらは潔く離れていくのです。いらぬものに養分を送るなどという不合理は致しません！）

最後に、おまけ。「桜」は、日本由来の「花」のように思いますが、実は、その原種は、遠く離れた「ヒマラヤ」に咲いています。（昨年放映された、「ヒマラヤ」の少数民族を訪ねるドキュメンタリーの中で、その話題が出てきました。）「桜」一つとってみても、なんてたくさんの不思議と、物語をもっているのでしょうか！

3Aの廊下から見える「ソメイヨシノ」の奥で、「ヤマザクラ」の若木は、しなやかに、そして、美しく、今、花開いています。この木もいつか、あの「ソメイヨシノ」のように大きくなるのでしょうか？遠い未来に確かめてみてくださいね。